

## 令和4年度 宮井小学校 学校評価結果について

### 1 学校評価について

学校評価は信頼される開かれた学校づくりをめざして、「児童がよりよい教育活動を受けること」をねらい、「学校をよりよくする」ために、学校・保護者の方々・地域の方々の協力により進めていく活動です。児童・保護者のアンケート結果や本年度の教育活動の振り返りをもとに教職員の自己評価などの学校評価を行います。学校評価を今後の学校運営や学校改善に生かし、児童や保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざして取組を進めます。

### 2 学校評価の活動について

学校評価の活動は、大きく次の5つの活動を行います。

- 児童・保護者アンケート
  教職員の自己評価
  学校関係者評価
  学校評価結果を受けての今後の改善策の検討とまとめ
  学校評価結果及び今後の改善策等の公表

### 3 学校評価の回答数と回答率について

児童(回答率100%)
保護者(回答率89%)
教職員(回答率100%)

### 4 学校評価アンケートの結果と課題、次年度への取組について

今年度の学校評価アンケート（児童・保護者・教職員）の結果を比較できるようにグラフにまとめました。「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の4つの領域と学校教育全般についてのご意見・ご感想、家庭教育に関するアンケート、自由記述について記載しております。

※グラフの見方につきましては以下のような表にまとめています。

グラフの見方	児童	<input checked="" type="checkbox"/> そう思う <input checked="" type="checkbox"/> だいたいそう思う <input type="checkbox"/> あまりそう思わない <input type="checkbox"/> 思わない
	保護者	<input checked="" type="checkbox"/> よく当てはまる <input checked="" type="checkbox"/> 当てはまる <input type="checkbox"/> あまり当てはまらない <input type="checkbox"/> ほとんど当てはまらない <input checked="" type="checkbox"/> わからない
	教職員	<input checked="" type="checkbox"/> よくできた <input checked="" type="checkbox"/> だいたいできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> できなかった

#### 確かな学力の育成について

##### ○成果

児童の回答では、設問①「分かる授業」②「基礎学力の定着」について、①約90%、②約83%の肯定的回答を得ており、概ね高い評価であった。

保護者の回答では、①「分かる授業」については、約87%であったが、②「基礎学力の定着」では100%、それ以外の設問でも90%以上の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

教職員の回答では、設問①「分かる授業」が約96%、②「基礎学力の定着」が約88%の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

##### ○課題

設問③「表現力」については、保護者の肯定的回答が約95%に対し、児童は約62%で少なく、教職員は約68%であった。

設問④「読書活動」については、保護者の肯定的回答が約97%に対し、教職員は約82%、児童は約62%と意識の違いが現れており、昨年度に続き課題となっている。

設問⑤「家庭学習」については、保護者の肯定的回答が約97%に対し、児童は約71%で少なく、教職員は約74%であった。

##### ○次年度への取組（R4年度の学校評価を基に検討）

○「表現力の育成」については、特別活動の研究大会に向け現在学校挙げて取り組んでおり、学級活動

等の話し合いでは自分の思いを伝えることができる児童が着実に増えてきている。しかし、教科の学習においては間違いをおそれる傾向があり、どう説明や表現をすればよいのかが分からず抵抗感を感じている児童が多い。この課題を解決するために、①発表したいと思えるような課題設定、②具体物の活用による見える化やイメージ化を図ることにより実生活とのつながりを意識させること、③発表の仕方や話形の提示などにより、抵抗感を軽減し成功体験を積み重ねることが必要であると考える。また、学級内においてがんばっていることを互いに認め合う受容的な雰囲気を育てていくことも重要である。

- 読書については、児童が手に取りやすい場所に興味を持てるような本や現在の学習に関わりのある本を置き、定期的に入れ替え紹介することで読書量が増えている学級がある。学級や図書室、「読書の森」にはたくさん本があるのに「読みたい本がない」という児童に、本と関わりをもてるような環境づくりやきっかけづくりをしていく必要がある。
- 家庭学習については、社会体育等で家庭学習の時間が十分にとれない児童が一定数いる。「宿題は家庭ですべきものである」という意識が児童にも教員にもあるが、朝や放課後等のすき間時間を利用して宿題や課題をするなどの、柔軟な対応も検討する。

## 豊かな心の育成について

### ○成果

全ての設問において、児童・保護者・教職員とも70%以上の高い評価が得られた。特に保護者は、⑦「仲間づくり」の約89%を除き、90%を越える肯定的回答が得られた。児童は、⑥「豊かな心や人間性の育成」が約85%、⑧「学びの生活化」が約86%、⑩「挨拶」は約85%と高い評価であった。教職員は⑩「挨拶の指導」が約94%、次いで⑦「仲間づくり」が約82%の肯定的回答が得られた。

### ○課題

設問⑧「学びの生活化」については、保護者の肯定的回答が約92%で高い評価であるのに対し、児童は約86%、教職員は約74%で最も低かった。

設問⑨「宮井校区のよさ」については、保護者の肯定的回答が100%で大変高いのに対し、児童は約72%、教職員は約75%であった。

### ○次年度への取組（R4年度の学校評価を基に検討）

○児童は、道徳や人権学習の授業に一生懸命取り組んでいる。しかし、自分が実感として感じていないことや困り感のないことについてはその時間が過ぎれば忘れてしまうことも多い。そこで、学びの足あとを掲示等により可視化して意識付けを図ったり、授業での学びが実際の生活とリンクするような声かけを増やしたりして、学びが生活の中で生かされるようにする。

○本校は、他校に比べると保護者や地域と関わる行事が多い。この3年間はコロナウイルス感染症の影響による制限はあったが、できる範囲で実施してきた。「ふるさと宮井のよさ」を知っている児童が約7割ということについて、児童は宮井地区で生活しておりそのよさを客観的に見る目が育っていないと考えられる。また、3年前に比べてゲストティーチャーを呼ぶことや地域に出ていく機会は減っており、教職員にも地域との関わりを実感できないものもある。

来年度からは、コロナウイルス感染症対応の変更に伴い、校外学習や地域とふれ合う機会を見直し教育課程に位置付けていく。その体験を通して、児童も教職員もふるさと宮井のよさに気付くことができるようにする。

## 健やかな体の育成について

### ○成果

設問⑬「体力の向上」について、肯定的回答の割合が児童は約92%、保護者は約98%と非常に高い評価が得られ、教職員も約87%で高くなっている。2年ぶりに放課後の体操や水泳、マラソン練習等が再開したことによると考えられる。

設問⑭「食育」について、児童は約77%、保護者は約92%、教職員は約82%の肯定的回答が得られ、概ね高い評価であった。

### ○課題

設問⑮「規則正しい生活」については、保護者から約95%の肯定的回答が得られたのに対し、児童は約64%で非常に少なく、教職員は約88%である。

設問⑭「外遊びの奨励」については、肯定的回答が保護者は約89%と高くなっているが、児童は約74%、教職員は約81%であり、課題が残る。

#### ○次年度への取組（R4年度の学校評価を基に検討）

- 「規則正しい生活」について、動画やYouTube、ゲームなどを時間を決めず（決めた時間を守らず）夜遅くまでやっている児童が一定数いる。生活についてのアンケート等を実施し児童の実態を把握した上で、メディアとの付き合い方について指導する必要がある。長期休業日中に実施している生活チェックを平日にも毎日実施するようにし、自分の問題点に気付かせ、家庭にも協力を仰いで、改善できるように意識付けしていく。
- 休み時間に外遊びをする児童は少なくないが、固定化している。そこで、運動委員会の取組として、したい遊びを提案し道具を準備して、外遊びができる環境づくりをしていく。  
2月に実施した「昔遊び集会」では、こま回しや竹とんぼ、けん玉を体験しておもしろさに気付き、休み時間に遊ぶ児童が出てくるなど、遊びの種類が広がった。運動委員会で提案・活動することにより、普段あまり外遊びをしない児童も参加できると考えられる。  
業間や昼休みの体育館開放（現在は雨天時のみ）については、安全管理の問題があるので引き続き検討していく。
- 給食指導について、「給食ハラスメント」といわれるように、完食を指導するのではなく、個の実態に応じた指導にするよう方法を見直していく時期が来ている。
- 今年度、「あるこうデー」を実効性のあるものにするために、自転車通学距離の見直し（1.8km→実測1.5km、プラスバンド等事情がある児童の自転車通学許可）と啓発活動を実施した。依然自家用車による送迎は一定数いるが、自力登校については改善されたので、保護者に協力を得ながら啓発活動をさらに続けていく。

### 信頼される学校について

#### ○成果

児童の回答では、設問⑯「学校行事の工夫・改善」、⑰「安全教育、環境設備」について、ともに約88%と、非常に高い評価であった。

保護者の回答では全ての設問について約95%以上の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

教職員の回答では、⑮「先生との関わり」が約94%、⑯「学校行事の工夫・改善」が約87%、

⑰「安全教育、環境整備」が約94%と、高い評価であった。

#### ○課題

設問⑮の「先生との関わり」については、児童の肯定意見が約53%と、他の設問に比べると大変低く、教職員や保護者の意識との差が大きいことから、具体的な取組が必要である。

教職員の回答では、⑱「情報の公開」、⑮「開かれた学校づくり」がともに約75%と、やや低い評価であった。

#### ○次年度への取組（R4年度の学校評価を基に検討）

- 「困ったときに先生に相談する」という児童は約53%である。教師と日常の会話はできても、悩みは相談しにくいようである。学期毎に実施している「学校生活アンケート」では、「困ったときに親に相談する」という児童が最も多く、「誰にも相談しない」という児童はほとんどいなかった。また約9割の児童が「学校が楽しい」（同アンケート）と答えており、学校（先生）を信頼していないのではなく、それほど深刻な悩みをもっていないので相談する必要がないという実態をみることができている。
- 「情報の公開」や「開かれた学校づくり」で教職員の評価が低かった点については、今年度の定期異動により教職員の約半数が変わったことが大きいと考えられる。新しい学校や地域の様子が十分に分からず、1年間の流れや行事等に対して見通しがもちにくかったため、目の前のことをこなすことに追われ、情報発信というところまで行き着かなかったと考えられる。来年度は、1年間の流れを具体的にイメージできるよう年間計画等について共通理解する機会を設けるとともに、地域との取組が加重負担にならないよう必要な部分とそうでない部分を見極めながらうまく取り入れていく。また、「宮小だより」や「学校ホームページ」による情報の公開も引き続き進めていく。

## 5 学校関係者評価について

### ■ 学校関係者評価とねらいについて

学校関係者評価とは、学校運営協議会委員（PTA役員、地域の学校関係者）により構成された学校関係者が、教職員の自己評価の結果や児童・保護者のアンケート結果などについて協議を行い、それを基本として行う評価です。学校関係者評価のねらいは、次の3点です。

- ・評価活動を通して保護者や地域住民などと互いに理解を深める。
- ・教職員による自己評価の客観性・透明性を高める。
- ・保護者や地域住民がよりよい学校づくりのプロセスに参加する仕組みをつくる。

### ■ 学校関係者評価の結果について

学校評価協力委員の評価結果（％は「よくあてはまる」・「おおむねあてはまる」の計）		
本校の教育	① 学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。	100%
	② 学校は、児童の教育に熱心に取り組んでいる。	100%
	③ 学校は、いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる。	100%
	④ 学校は、児童一人一人を理解し、よさや可能性を伸ばすよう心がけている。	100%
	⑤ 学校は、児童が楽しく学ぶために、「分かる」授業に努めている。	80%
	⑥ 学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている。	100%
	⑦ 学校は、感染症対策など教育活動の安全管理や教育環境の整備に努めようとしている。	100%
	⑧ 学校は、地域行事に積極的に関わろうとしている。	100%
児童の様子	⑨ 児童は、規則正しい生活を送っている。	80%
	⑩ 児童は、気持ちのよいあいさつができています。	80%
	⑪ 児童は、やさしく思いやりのある態度が見られる。	100%
	⑫ 児童は、元気になかよく遊んでいる。	80%
	⑬ 児童は、粘り強くがんばることができています。	60%

※学校運営協議会委員は、5名です。

### ■ 学校関係者評価の傾向や意見等について

#### ◇本校の教育について

学校運営協議会委員の方は、①～⑧の観点の本校の教育について「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」として肯定的な評価をしている。特に①「保護者や地域の願いに応えようとしている」⑥「地域と連携して教育活動を進めようとしている」は、8割の方が「よくあてはまる」という高い評価結果になっている。

意見交換では、保護者の評価は高いが児童・教職員の評価が低い項目（表現力の育成・読書・家庭学習・宮井の良さ）について、原因として次の3点があがった。①自己評価が低いのではないかと。②他校と比べることができないので良さやがんばりを実感できていないのではないかと。③学校が保護者の実態を伝え切れていないのではないかと。それに対して、児童の自己評価はもっと高くてもよい、自信をもってほしい。教職員も自信をもってほしいという意見をいただいた。また、自分の言いたいことが言える力は、社会に出て責任をもって仕事をするにつなげるので、しっかり身に付けさせてほしいという意見をいただいた。「宮井のよさ」については、感染症の対応が一段落するので、地域に出る機会を増やしたり地域の人材をもっと活用したりしてはどうかという意見が多くあった。

#### ◇児童の様子について

⑨～⑬の観点の児童の様子についておおむね肯定的な評価であった。⑬については、感染症の影響もあるが、児童は忙しすぎて時間的に余裕がないという報告がされた。学習の楽しさを感じたり学習が自分の未来へとつながっていることを意識させたりして、学ぶ意欲を高めていきたい。また、特別活動に学校全体で取り組み、自分で考え判断できる力を身に付けさせたい。

#### ◇その他意見

- ・中学校に行ってから不登校が心配だ。家庭的な雰囲気からのギャップが大きい。中学校入学時に同じ学年になる他の小学生と交流する場を設けたい。
- ・GIGAスクール構想による一人一台タブレットについて、授業や宿題、リモート交流、欠席者への授業配信等、活用が進んでいることに驚いた。さらに効果的な活用方法を考え、デメリットについてもしっかりと指導してほしい。

## 6 学校評価結果及び今後の改善策等の公表について

学校評価結果及び今後の改善策等につきましては、「宮小ホームページ」「PTA会合」等を通して広く公開したり、説明したりしていきます。学校評価の取組を通して、これからの宮井小学校がより「楽しい学校」「やる気のある学校」「やさしい学校」となるよう取り組んでいきたいと考えています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。